column

マイエコー，買っちゃいました

橘田綾菜

東京女子医科大学八千代医療センター整形外科

エコーに向かって思わず深くお辞儀をした症例がある．症例は1歳半の男児．「お熱がでて，左腕を使わなくなりました．」と母．よくみると左手が腫れ熱感も強い．採血で炎症反応が高値であり，化膿性手関節炎を疑い穿刺を試みるべきだと判断した．しかし元々肉付きのよい手はさらにパンパンに腫れあがり，どこが関節かわからない．すがる思いでエコーを当てると，関節包や周囲の軟部組織が腫れていることがわかった．エコーガイド下で関節液を穿刺吸引後，抗生剤投与を開始し緊急手術まで待機することが可能であった．夜遅く院内に整形外科医は自分のみ，成長障害のリスクが頭をよぎる．そんな危機的状況を，エコーが救ってくれた．

マイエコーとの出会いは，2019年初夏の頃である．4月から当大八千代医療センターで小児整形外科外来を開設したが，エコーを常時使用できる環境ではなかった．運動器診療に欠かせないツールであるといわれているエコーだが，小児も同様で，発育性股関節形成不全(乳児股関節脱臼)をはじめとし，さまざまな疾患に使用することができる．すぐエコーを当てることができないストレスに悩まされ，購入へ至った．必要に迫られ購入したエコーであったが，今では，人との出会いを繋げてくれる存在となっている．エコーを中心として，出会う人の輪が広がり，人生がより豊かで楽しくなったように思う．

これまで，長野や千葉，なかでも交通の便が悪い地域での勤務が多く，「車なしでは生きていけない」と周囲から散々言われてきた．

「マイカーよりマイエコー」，この選択を一度も後悔したことはない．車は環境汚染が問題とされているが，エコーはエコなだけでなく，患者さんを笑顔にするのである．

そして，今の私は「エコーなしでは生きていけない．」

写真：エコーと一緒に「ハイ，ポーズ！」
(ご両親の許可を得て掲載しております)

©IGAKU-SHOIN Ltd, 2020

0557-0433/20/紙：¥800/電子：¥1200/論文/JCOPY

2026/10/13 00:53:46